

## 人口ビジョン（重点戦略の背景）

### 1 人口の推移・見通し

#### （1）人口の推移（本市の各年実績値）

総人口が、展望人口や推計人口を上回っており、「平塚市総合計画～ひらつかNEXT（ネクスト）～改訂基本計画」に基づき推進してきた取組が、成果として表れている。

近年、転入超過による社会増が続き、2022年には1万人超の転入、18人の人口増となっている。

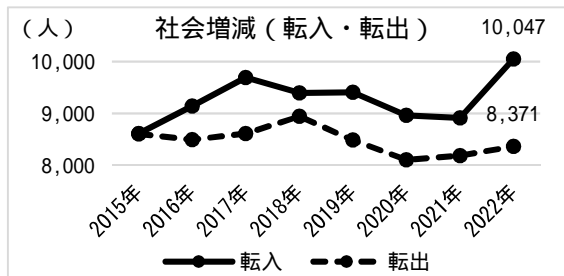
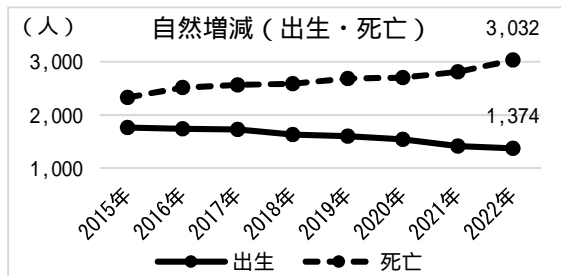
一方、2020年以降、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、出生数の減少幅が拡大しており、今後、更なる自然減（出生数の減少及び死亡数の増加）が見込まれる。 単位：人

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
自然増減	563	778	838	955	1,081	1,158	1,398	1,658
社会増減	3	646	1,078	453	915	857	731	1,676
人口増減	560	132	240	502	166	301	667	18
総人口*1		258,126	258,439	258,004	257,729	258,422	257,883	257,713
展望人口*2	258,227	257,643	257,059	256,474	255,890	255,306	254,679	254,052
推計人口*3		257,398	256,569	255,741	254,912	254,083	252,788	251,494

\*1 各年10月1日時点の総人口 2023年1月1日時点の推計人口は、257,649人

\*2 合計特殊出生率の上昇と人口移動の均衡により達すると見込まれる人口（施策効果を反映した場合）

\*3 国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計に基づく人口（本市が何ら対策を講じない場合）



出典：平塚市統計書

#### （2）人口の見通し（全国及び本市の2070年推計値）

日本の総人口は、約50年後（2070年）に現在の約7割に減少し、老年人口（65歳以上）が約4割を占めるとされている。 本市の総人口は、約50年後（2070年）に現在の約6割に減少し、国と同様、老年人口（65歳以上）が約4割を占める見込みである。

		全国	平塚市
総人口		8,700万人	159,774人
内訳 人数（構成比）	年少人口（0～14歳）	798万人（9.2%）	14,958人（9.4%）
	生産年齢人口（15～64歳）	4,535万人（52.1%）	82,232人（51.5%）
	老年人口（65歳以上）	3,367万人（38.7%）	62,584人（39.2%）

出典：＜全国＞国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」

＜平塚市＞本市独自推計（2015年と2020年の人口増減率（変化率）に基づく簡易推計）

▶人口減少への対応（積極戦略・調整戦略）に本格的に着手し、推進していくための総合計画（総合戦略）とする必要がある。

## 2 重点戦略の背景

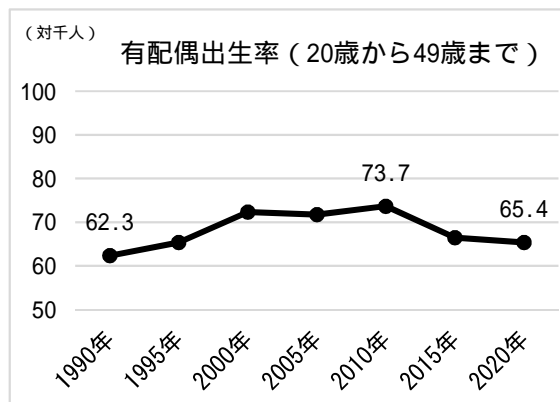
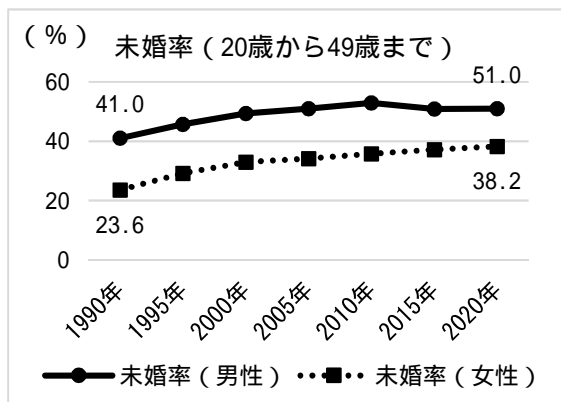
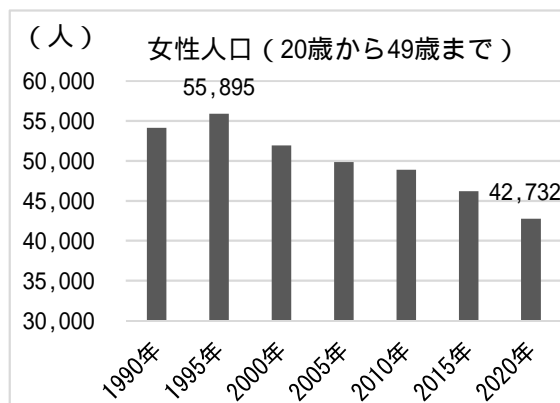
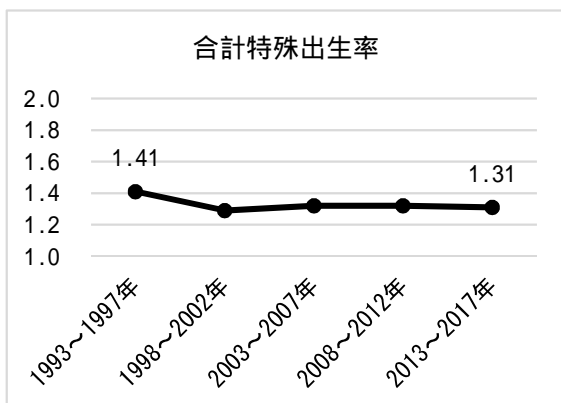
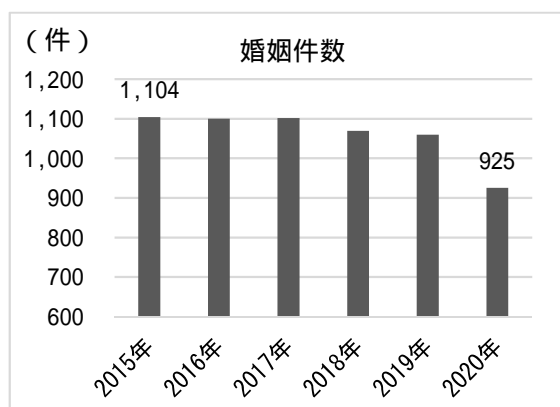
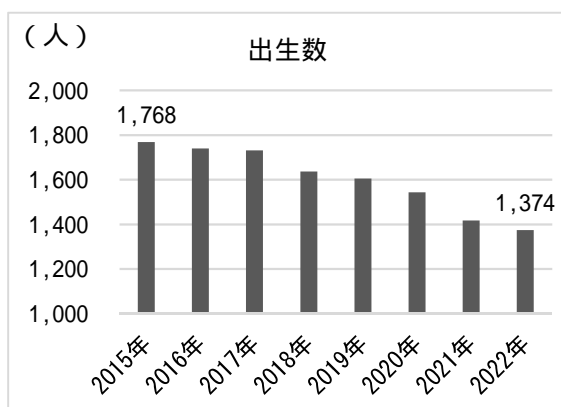
### (1) 子育て(少子化)

#### ア 出生数、婚姻件数、合計特殊出生率、女性人口、婚姻件数、未婚率、有配偶出生率

本市の出生数及び婚姻件数は、減少傾向にある。特に2020年以降は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、出生数の減少幅が拡大している。

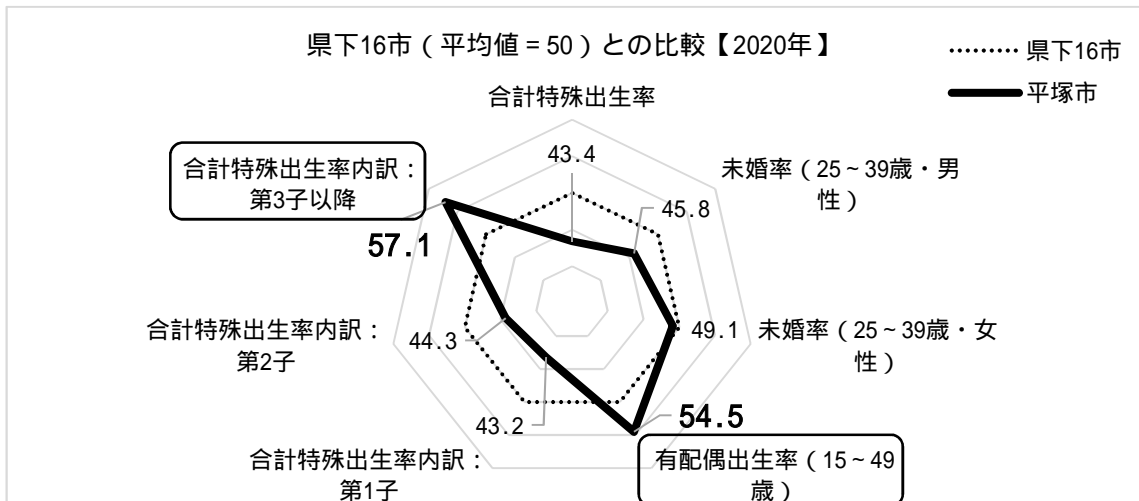
本市の合計特殊出生率及び女性人口は、減少傾向にある。女性人口が減少していることから、合計特殊出生率が向上しても、出生数の大幅な上昇は見込めない。

本市の未婚率は、上昇傾向にある。有配偶出生率は、直近では減少傾向にあるものの、1990年比では増加となっている。



出典：平塚市統計書、厚生労働省「人口動態保健所・市町村別統計」、「人口動態統計」、総務省「国勢調査」

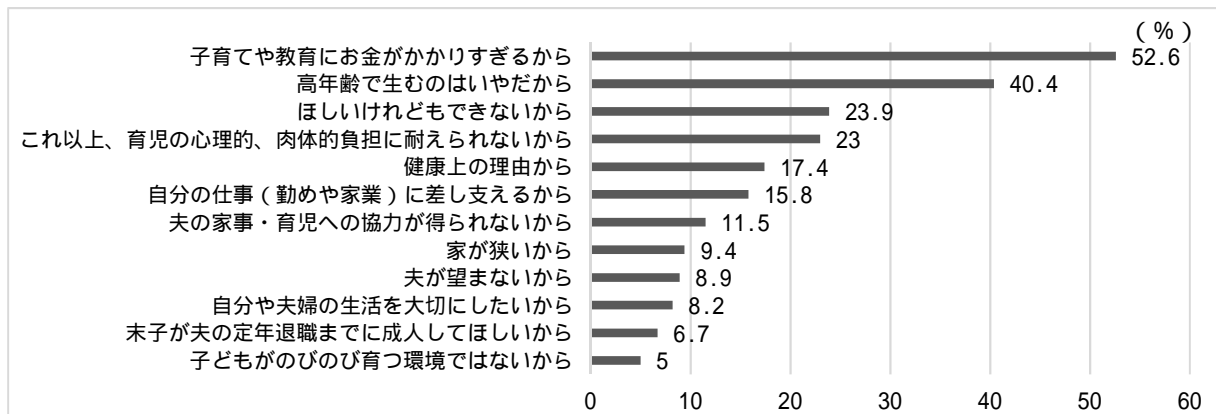
本市の第3子出生率や有配偶出生率は、県下16市平均と比較して高くなっている。



出典：地域少子化・働き方指標（第5版）

イ 夫婦が理想の数の子どもを持たない理由

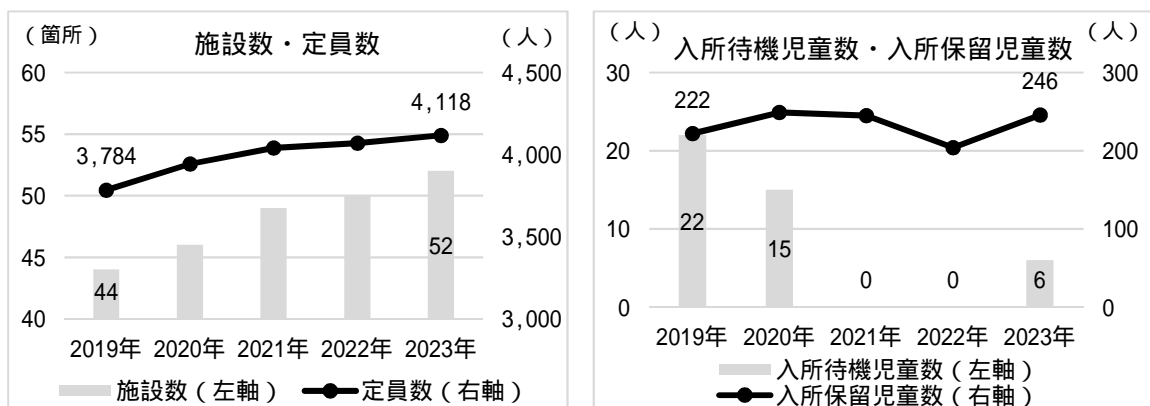
全国の調査によると、理想の数の子どもを実際には持たない理由として最も選択率が高いものは、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」という経済的理由となっている。



出典：国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査（2021年）」

ウ 保育所等の施設数・定員数、入所待機児童数・入所保留児童数

本市の保育所等の施設数・定員数は、増加傾向にある。入所待機児童数は、直近2年の0人から一転して6人となっており、入所保留児童数は、微増傾向にある。

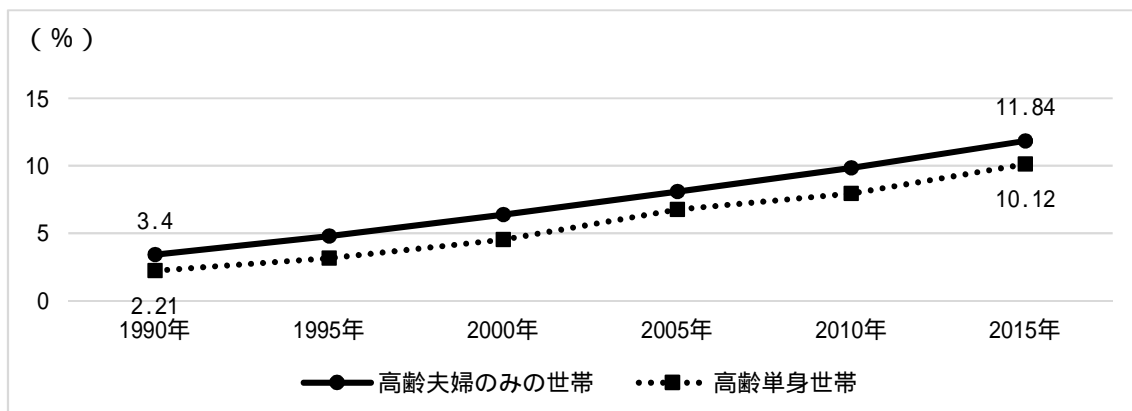


出典：平塚市発表資料

(2) 福祉(高齢社会)

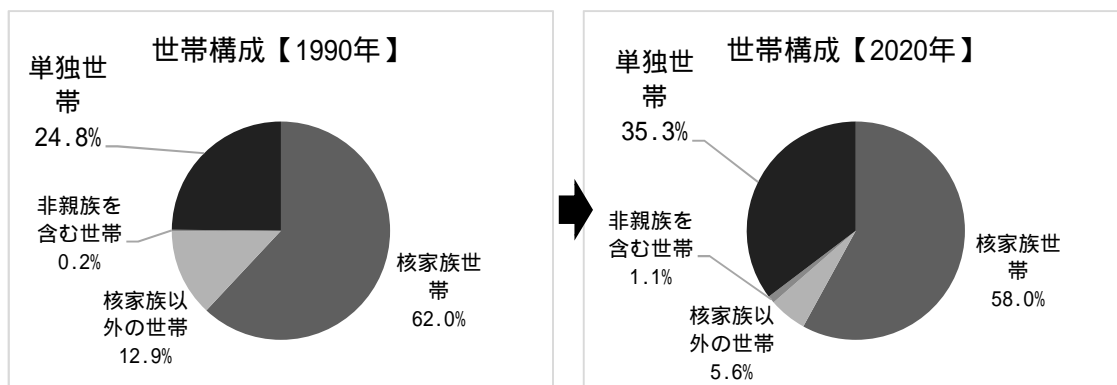
ア 高齢夫婦のみの世帯・高齢単身世帯、世帯構成

本市の高齢夫婦のみの世帯及び高齢単身世帯の割合は、いずれも上昇傾向にある。



出典：総務省「国勢調査」

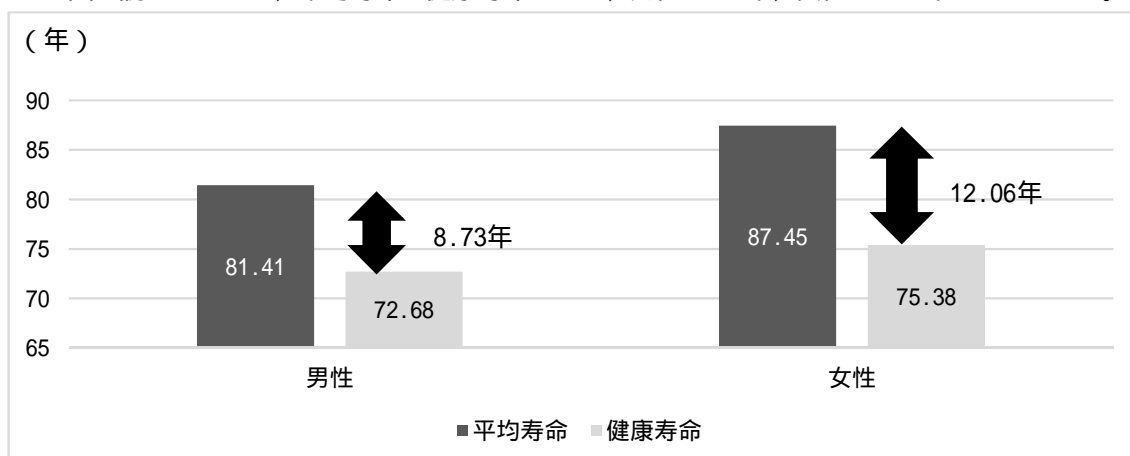
本市の世帯構成をみると、単独世帯の割合が大幅に上昇している。



出典：総務省「国勢調査」

イ 平均寿命・健康寿命【2019年】

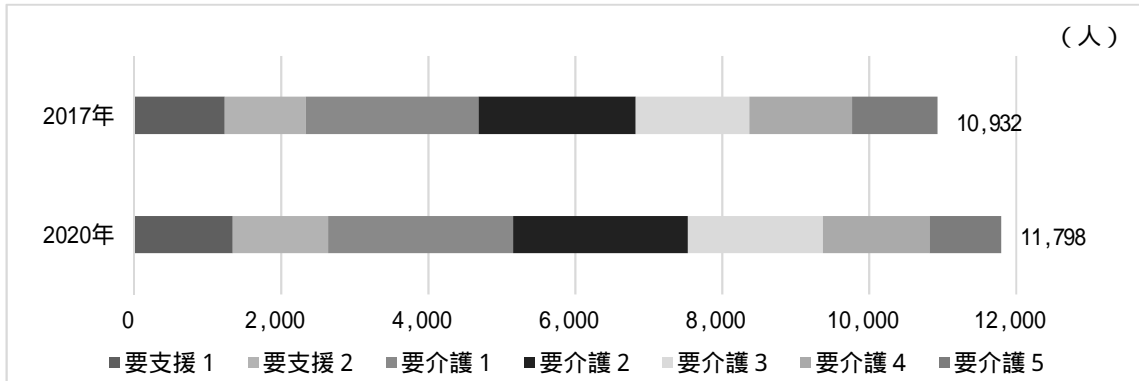
全国の調査によると、平均寿命と健康寿命の差は、男性8.73年、女性12.06年となっている。



出典：厚生労働省「生活習慣病予防のための健康情報サイト」

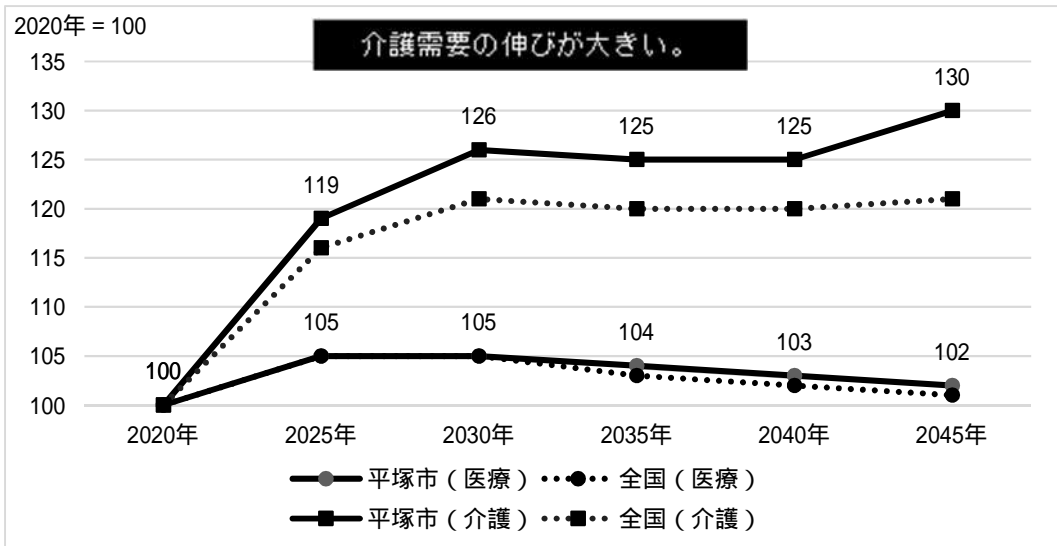
ウ 要介護者等の状況

本市の要介護者等は、増加傾向にある。

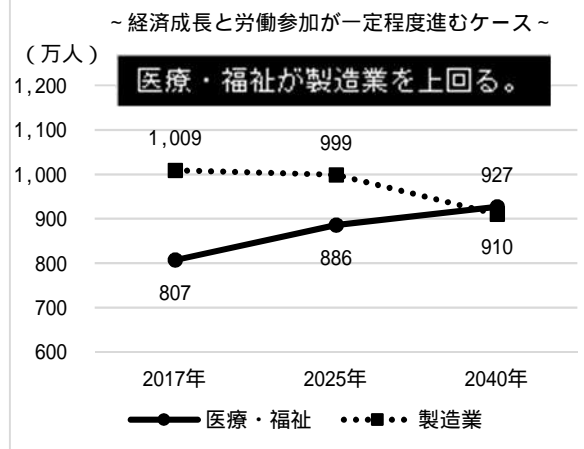
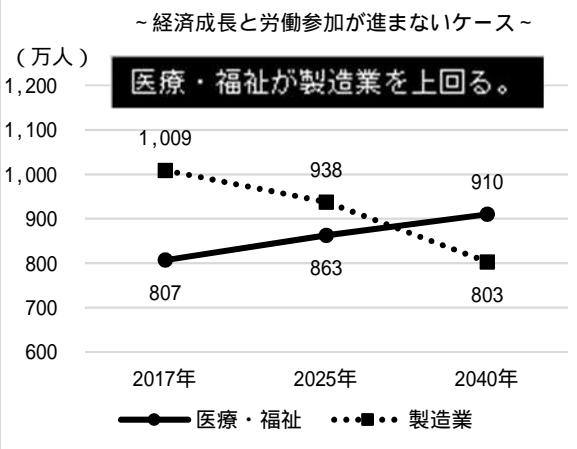


出典：平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画 [第8期]）

～参考（推計データ）～ 医療介護需要予測指数（上段） 産業別就業者数の推移（下段）



出典：公益社団法人日本医師会「地域医療情報システム」

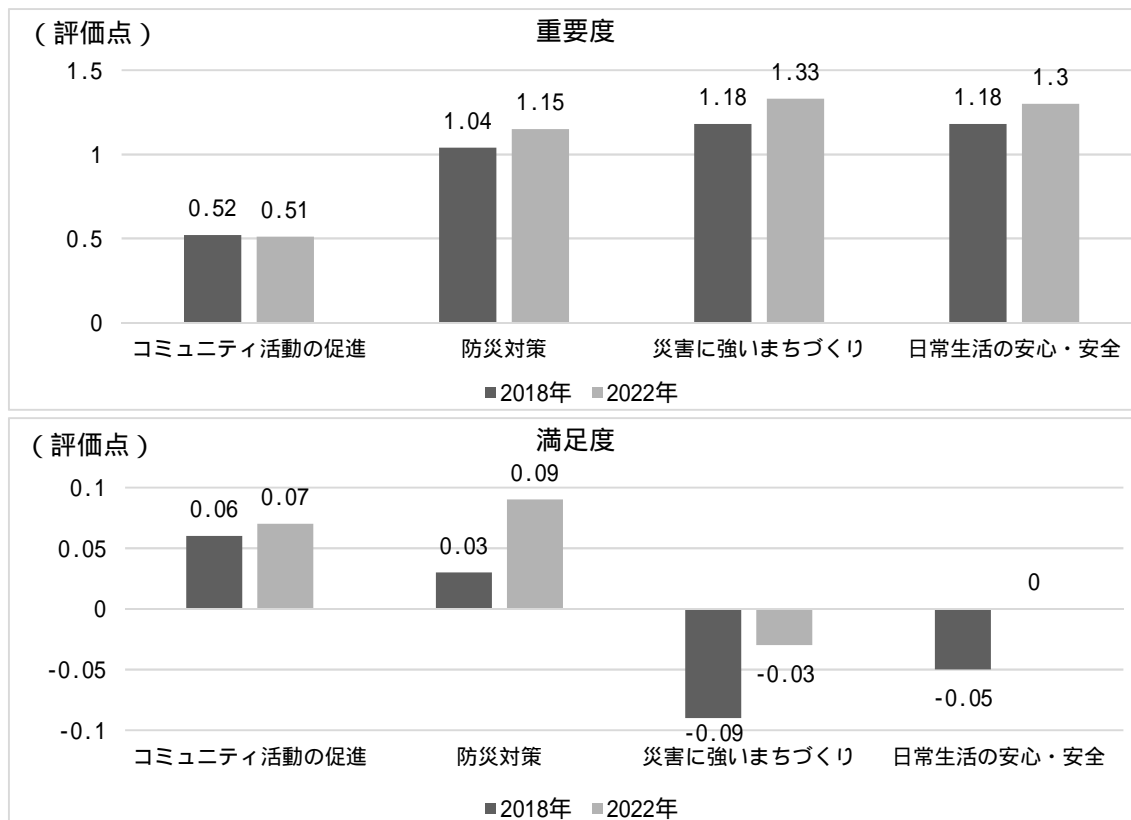


出典：厚生労働省「雇用政策研究会報告書（2019年7月）」

### (3) 安心して住み続けられる地域

#### ア 防災・防犯・コミュニティ

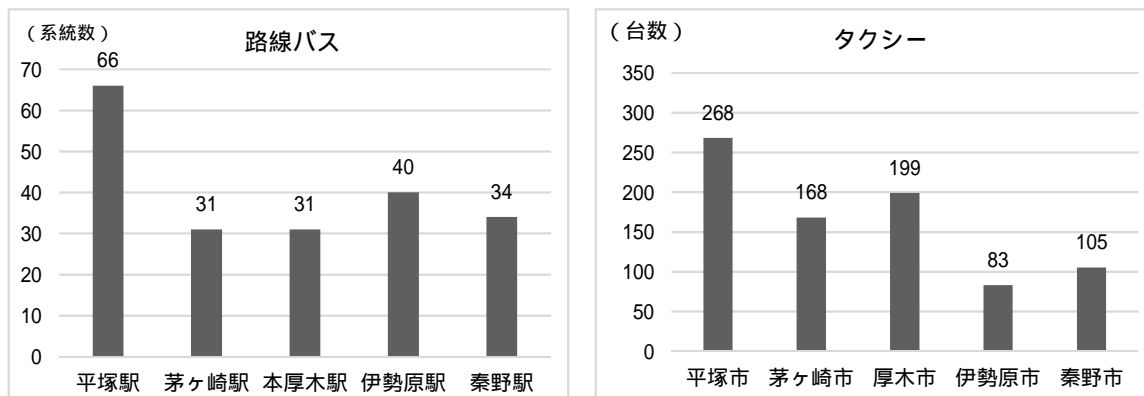
市民意識調査の結果によると、「災害に強いまちづくり」は、重要度が高い一方、満足度が低くなっている。「防災対策」、「災害に強いまちづくり」及び「日常生活の安心・安全」を推進するためには、自治会等のコミュニティ活動の重要性への理解や多くの住民参加と継続的な活動が不可欠であり、低値に留まっている「コミュニティ活動の促進」の重要度を高めていく必要がある。



出典：令和4年度平塚市市民意識調査

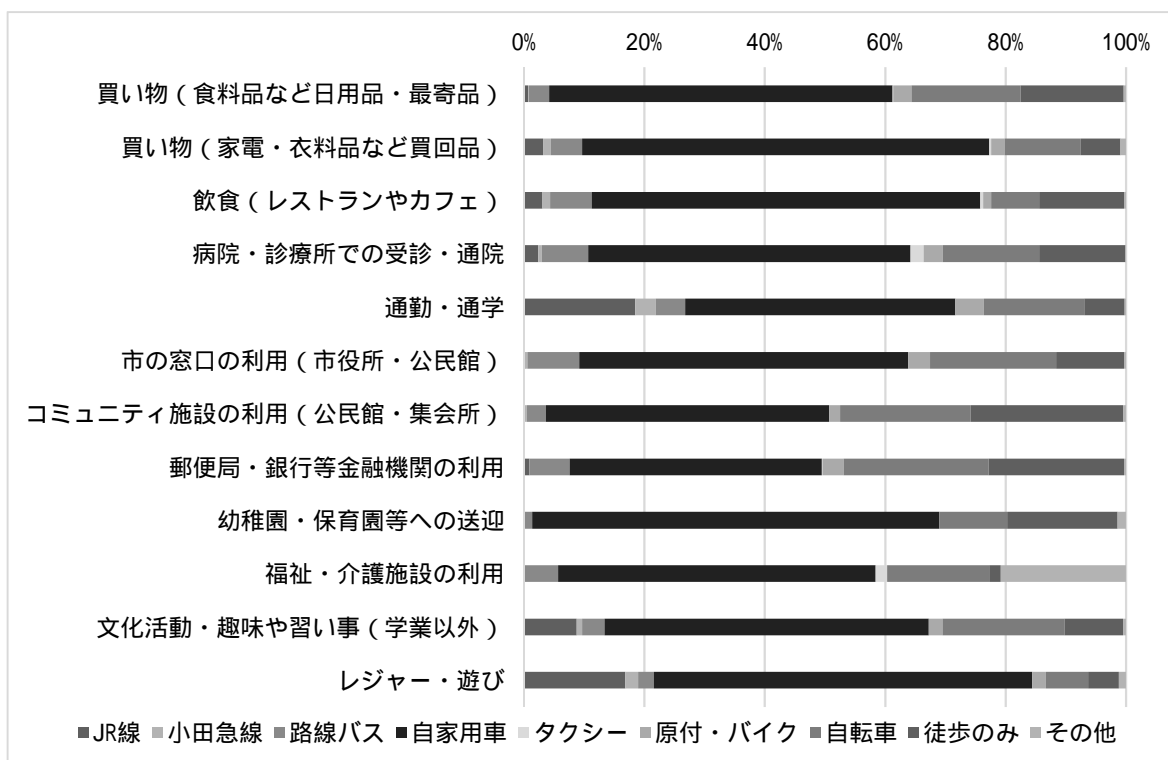
#### イ 交通

JR東海道線平塚駅を中心に近隣市の鉄道駅等を放射状に結ぶバス路線が充実している。また、本市内に複数の事業者があることから、タクシー台数も充実している。



出典：平塚市「公共交通の利用促進と地域内交通の整備に関する手引き」

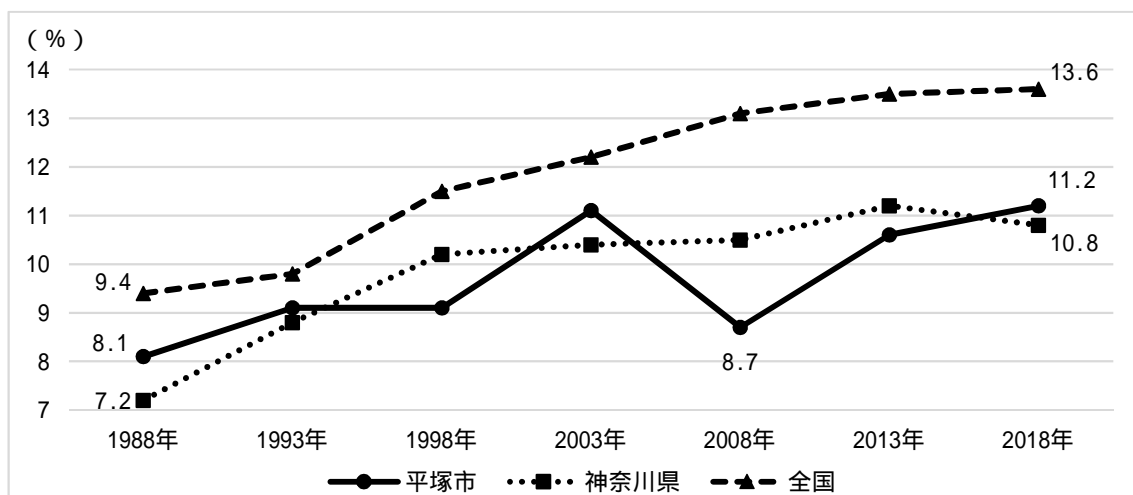
市民対象のアンケート調査によると、移動手段は、全般的に自家用車が多くなっている。食料品など日用品・最寄品の買い物、コミュニティ施設や金融機関の利用においては、自転車や徒歩が比較的多く、病院・診療所での受診・通院や市役所・公民館の利用においては、路線バスが比較的が多くなっている。



出典：平塚市の便利で快適なまちづくりに関する市民アンケート調査

### ウ 空き家

本市の空き家率は、2008年以降増加傾向にあり、直近では神奈川県を越える状況となっている。

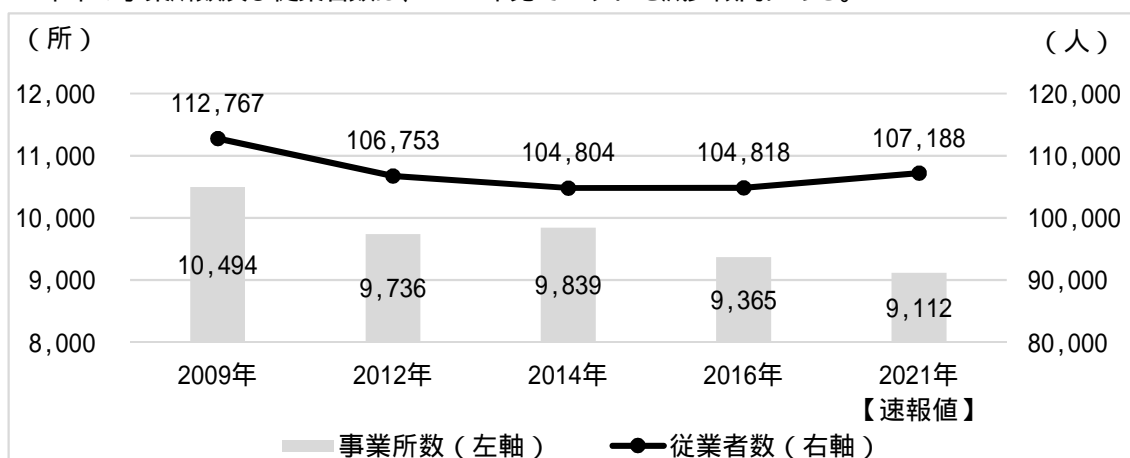


出典：総務省「住宅・土地統計調査」

(4) 産業

ア 事業所数・従業者数

本市の事業所数及び従業者数は、2009年比でいずれも減少傾向にある。

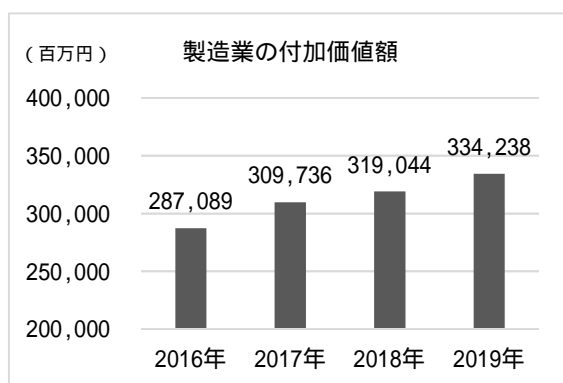
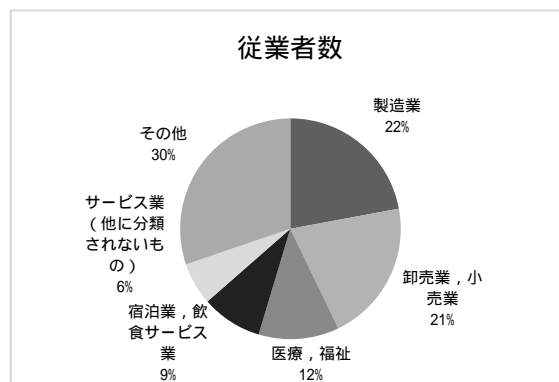
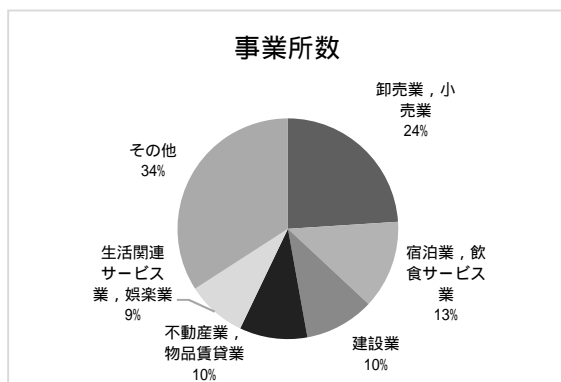


出典：総務省「経済センサス - 基礎調査」

イ 産業別事業所数・従業者数【2016年】、製造業の付加価値額・上位5分類【2019年】

本市の従業者数は、製造業、卸売・小売業が約4割を占めている。

従業者数第1位である製造業の付加価値額は、増加傾向にあり、化学工業、輸送用機械器具製造業が上位を占めている。



単位：百万円

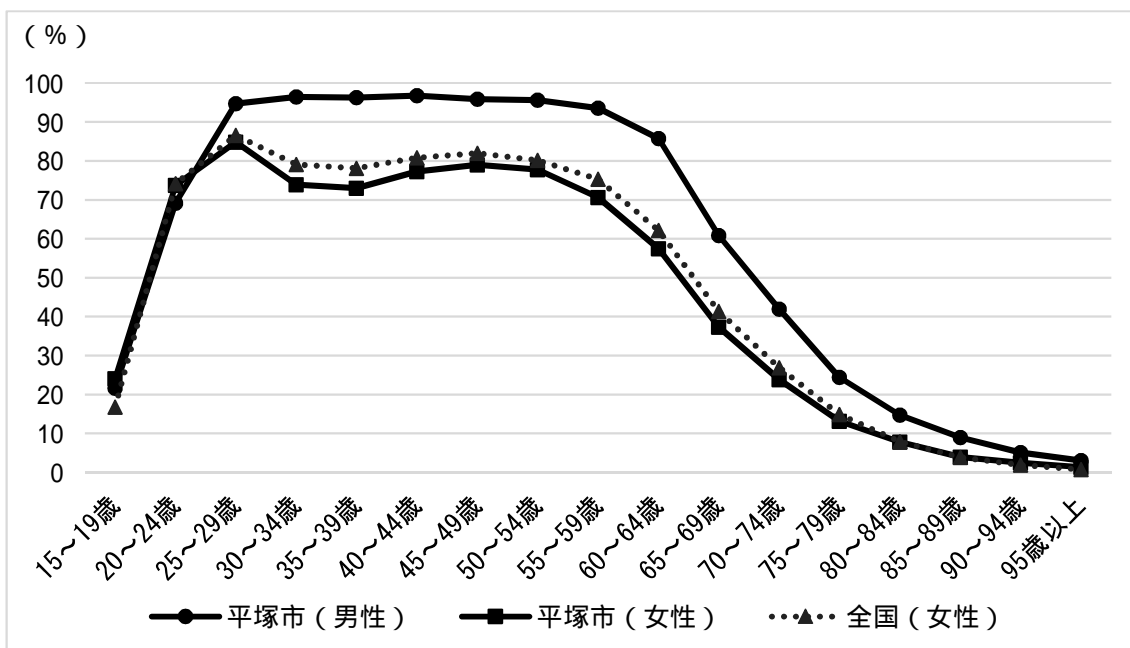
産業中分類	付加価値額
化学工業	60,825
輸送用機械器具製造業	59,539
プラスチック製品製造業	53,604
非鉄金属製造業	43,799
生産用機械器具製造業	24,935

出典：総務省「経済センサス - 基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス - 活動調査」、  
経済産業省「工業統計調査」



ウ 性別・年齢階級別労働力率【2020年】

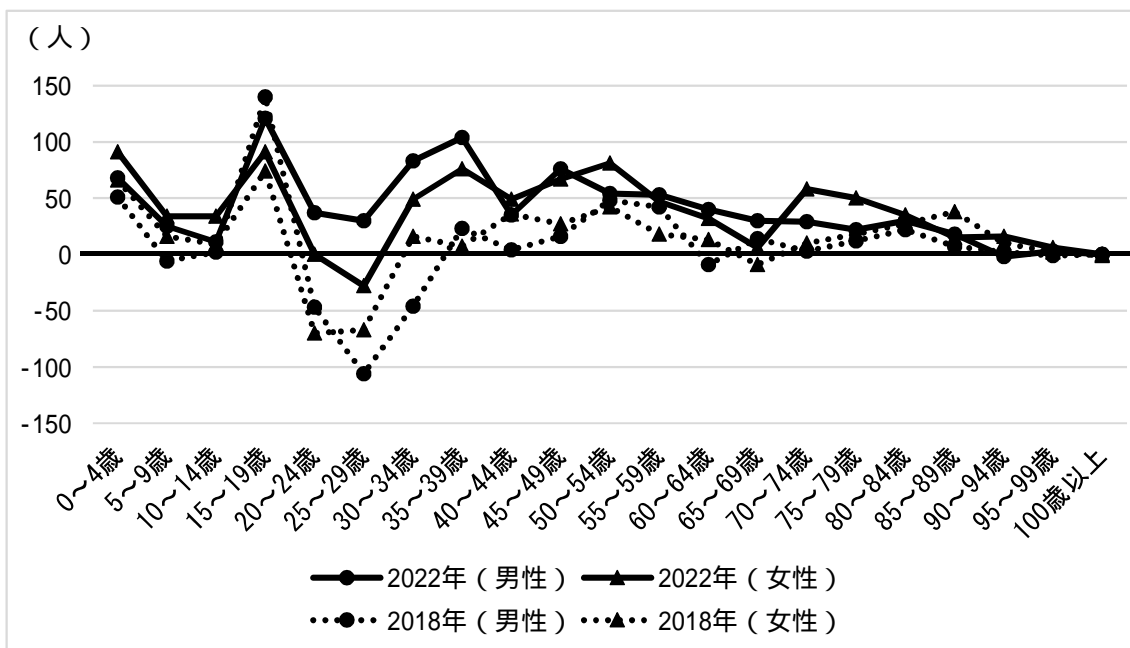
本市の労働力率をみると、20代後半から30歳前半までの女性や60代以降の男女の減少幅が大きくなっている。女性の労働力率は、全国平均をやや下回っている。



出典：総務省「国勢調査」

エ 年齢階級別転入超過数

本市の社会動態をみると、10代後半の進学に伴う転入超過、20歳代の就職に伴う転出超過、30歳代以降の子育て世代・65歳以上のシニア世代の転入超過という特徴がある。



出典：平塚市総務部行政総務課提供資料から作成

以上